

(様式2-2)

令和5年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」成果報告書

1 指定校・指定校群 (高松市立山田中学校)

2 実施の内容

(1)組織について

- ・ 教室配置については、生徒玄関とは別の出入口があり、トイレや保健室にも近い部屋を準備した。
- ・ 相談室(校内サポートルーム(以下KSR))に専属の担任(以下KSR担任)を配置し、KSRの運営と不登校傾向の生徒の支援を行った。KSR担任が中心となって各学年団の教育相談担当や通室生徒の学級担任が情報交換を行いながら支援を行った。毎日のKSR担当者は、学年・教科等を可能な限り配慮し、多くの教員が担当できるようにした。
- ・ 不登校傾向のある生徒については、学級担任が1週間単位で状況を記録し、学年団・生徒指導委員会等で共有した。生徒指導委員会では、SC・SSWとの面談状況やKSRへの通室、教育支援センターへの通室等も情報交換を行い、生徒指導担当より各学年団に伝達し、教職員で生徒の情報を共有した。なお、KSRの通室は、SCまたはSSWと本人・保護者が面談し、仮通室を経て正式に通室とした。

(2)運営について

- ・ KSRに該当する生徒への個別の支援については、該当生徒とSCまたはSSWが定期的に面談を行い、SCやKSR担任の意見も参考にして学級担任が個別の支援計画を策定した。個別の支援計画は学期ごとに見直し、計画的に支援を進めた。
- ・ KSRの教室は、朝の会から帰りの会まで休み時間も隙間なく教員が在室し、通室生徒の登下校の対応を行った。
- ・ 学習については、自習・教室の授業配信をKSR通室生徒に希望を聞き、また、年度途中から図書室の利用(学級文庫の設置)を行った。

3 成果

(1)校内サポートルームにおける児童生徒の様子

12月末現在、30日以上欠席のある生徒とKSR通室生徒は以下のようになっている。

	30日以上欠席のある 生徒数(不登校生徒数)	KSR 通室生徒数	備 考 (KSR通室生徒の様子等)
1年生	10 (10)	2	・ 通室生徒は2名とも1学期途中から欠席が続き、KSRに通室を始めた。1名は午前中、もう1名は午後からの通級で各自のペースで登校している。
2年生	14 (10)	6	・ 通室生徒3名は昨年度から継続で、そのうち1名は、KSR通室にはほぼ毎日通室しているため欠席日数も少なく、体調をみながら教室で授業を受けている。1名は、午前中を中心に休養日を取りながら登校し、1名は教育支援センターへの通室を始めた。 ・ 今年度から通室を始めた生徒の内1名は、行事や授業により少しずつ教室へ入ることができるようになっている。
3年生	15 (13)	6	・ 6名とも今年度からの通室で、各自のペースで午前中に登校している。そのうち3名は行事等の折に学級へ入ることができた。 ・ この6名以外に昨年度から相談室を利用していた生徒1名は、4月から徐々に授業に参加し、現在は教室復帰を果たしているため、通室生徒には含めていない。
計	39 (33)	14	※昨年度の通室生徒数は10名

不登校の要因は様々であるが、KSRを利用して登校できるようになった生徒は、人間関係や集団生活に起因する場合が多く見られる。また、早い時期からKSRへ通室したため、欠席がほぼない生徒もいる。生徒の意思を確認しながら学校行事や教科について参加を促し、マイ・ランチの日にはKSR通室生徒全員が弁当持参で登校することができた。

【図1】

KSR通室生徒は各自のペースで学校に登校することで、規則正しい生活が送れており、自信につながっていると思われる。不登校傾向の生徒へKSR担当教員よりフレンドシップ等の教育支援センター主催の行事を案内することで興味を持ち、教育支援センターへの通室を始めた生徒もいた。(KSR通室生徒以外のフレンドシップ参加者は2名)

KSR通室生徒のうち3名は学校への登校が難しい状態ではあるが、対象生徒とその保護者からは学級以上に登校できる居場所があることを喜んでおり、まずはKSR通級を目標に気持ちを整えている。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

KSR通室生徒にはSCやSSWからも積極的に関わり、定期的に面談を行うことで生徒の状態を専門的な立場から見取ることができており、個別の支援に生かすことができています。面談内容については、カウンセリングの記録を関係職員へ回覧して情報を共有した。

学習機会の補償については、生徒の希望でタブレットPCを活用するようにした。現在、5教科については学習進度に個人差があるため、通室生徒全員が各自のペースでワークなどの教材を進めることを希望している。4教科や総合的な学習の時間等は、授業の内容等によって少しずつ教室で授業を受けられるようになった生徒もいる。しかし、ほとんどのKSR通室生徒が自習と読書を希望するため、4教科を中心に、作品作りやタブレットPCを使ったExcelの授業などを促したり、図書館司書の協力を得て学級文庫を設置したりして、教室復帰の土台作りをして学習の時間の充実を図った。

(3) 総括

KSRを設置し、朝の会から帰りの会まで常に教員を配置したことで、不登校傾向の生徒や保護者に安心して登校できる場所と受け止められ、KSRへの通級希望が昨年度より増加した。今年度、完全に教室復帰を果たした生徒は1名であるが、次年度からの学校生活に向けて少しずつ教室へ入れるようになった生徒や規則正しい生活を目標として登校できるようになった生徒が多くいたことは成果といえる。

課題としては、KSR通室生徒同士の人間関係と学力保障、そして教室復帰への意欲があげられる。

KSR通室生徒同士の人間関係は、兄弟での利用や服装等生徒指導上の問題がある生徒が他の生徒に与える影響が少なからずあることである。まずは、KSR内での生徒間の交流や学習活動を充実させることで人間関係作りを促していきたい。

KSRへの通室で満足してしまい、学級復帰への意欲が薄れている生徒や保護者に対しては、個別の支援計画策定の流れを見直していきたい。今年度は、学期末に個別の支援計画の見直しを教職員間の見取りから行ったが、次年度は学期の区切りにKSR通室生徒自身が振り返りや目標の設定をすること、保護者に生徒の目標を伝えて保護者とも支援の方向性を共有することで、家庭と連携して中学校卒業後を見据えた集団生活復帰への支援を行ってきたい。

現在、不登校傾向のある生徒は全校生徒の約8.2%にあたる44名おり、今後も学校全体で不登校対策に取り組む必要がある。学校全体としては、現職教育でピア・サポート活動等を中心としたなかまづくりの研究を継続し、不登校の未然防止に努めるとともに、生徒同士の支え合いや個人の自浄力を高めていきたい。また、KSR担当が各学年の教育相談担当と連携して学級担任と協力することで学級担任の負担を軽減し、複数の教職員が不登校傾向の生徒や保護者と関わり、状況に応じて情報提供や個別の支援をすることで登校への足がかりを作っていきたい。

令和5年 11月6日 曜日

学年	組	日の会	1校時	2校時	3校時	4校時	給食	5校時	6校時	帰りの会
			先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	
1	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
2	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
3	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
4	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
5	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
6	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
7	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
8	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
9	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
10	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
11	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生
12	年	組	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生	先生

記入例: 8:50 登校 (出席) 朝の会 (教科名) 14:30 下校

・登校した日、登校時間、登校の理由(○)を記録し、記入してください。
 ・登校しない日、登校しない理由(△)を記録してください。
 ・下校した日、下校時間(△)を記録してください。
 ・登校しない日、登校しない理由(△)を記録してください。
 ・登校しない日、登校しない理由(△)を記録してください。

【図1】 マイ・ランチの日のKSR出席簿